

PSQ  
Packaged Software Quality Certification

パッケージソフトウェア品質(PSQ)認証制度

CSAJ  
Computer Software Association of Japan  
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会



## 品質の見える化

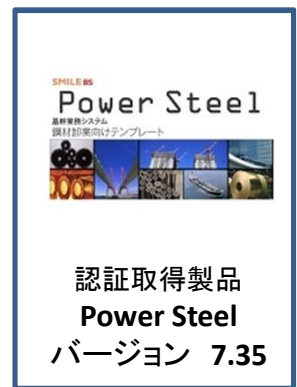
パッケージソフトウェア品質(PSQ)認証制度は、  
世界に通用する国産パッケージソフトの品質を認証するしくみです。

認証取得企業の声: 日本ナレッジ株式会社

「Power Steel」は、全国で5000社ある鋼材卸・非鉄金属といった業界を対象に、延べ500本以上の販売実績を誇る鉄鋼・非鉄金属業向け販売管理システムです。販売管理ソフトウェアとして数万本出荷されている「SMILE BS(株式会社OSK)」をベースに、鋼材向けとして鋼材業に必要な重量管理、数量管理といった在庫管理から加工までタイムリーに把握できるだけでなく、実績を元にしたデータ分析までカバーする幅広い機能は、多くのユーザーから高く評価されています。

鉄鋼業に必要とされる重量と数量の同時管理、寸法ごとやロットでの管理ができるパッケージで、基本機能だけでなく、開発用簡易ツールがありユーザーごとのカスタマイズが容易であったり、「SMILE BS2会計」など他のSMILEシリーズとも連動できる柔軟性が特徴です。

システム事業部 兼 ITO事業部 統括部長 谷川昌美氏と、PSQ認証取得に対応された、システム営業部マネージャー 城野一慶氏、システム開発事業部 事業推進室マネージャー 戸田達也氏にお話を伺いました。



認証取得製品  
**Power Steel**  
バージョン 7.35

### 日本ナレッジの品質に対する考え方について

日本ナレッジは「システム開発」「検証」「スポーツ事業」を3本柱とし、徹底したユーザー目線でお客様とともに成長を続けている企業です。検証事業においては、第三者検証に特化した業界団体である一般社団法人IT検証産業協会 (IT Verification Industry Association 略称 IVIA (アイビア)) に加盟しており、自社製品の品質を高めるという点でも大いに活かされています。IVIAが主催する「IT検証技術者認定試験(IVEC)」については、以前は検証技術者だけが取得していたのですが、現在では開発メンバーをはじめ、営業でも積極的に取得を進め、全社で100人以上の有資格者が製品品質の維持向上に努めています。(谷川氏)



システム事業部  
兼 ITO事業部  
統括部長 谷川昌美氏



システム営業部  
マネージャー  
城野一慶氏

Power Steelは22年前、オフコン時代から開発されており、SMILE BS対応品で5代目となります。

鋼材卸向けという業種特化型ソフトウェアとして、お客様の要望を取り込みながらバージョンアップを繰り返してきました。バージョンアップは機能追加だけでなく、より安心して使っていただくために品質を高めることも意識し、前述の検証技術を元手に、機能と品質の両面で進めています。

また、社内に品質に関係する5つの委員会を立ち上げ、定期的に運営しています。製品がきちんと動作するかどうかという点だけではなく、品質を担保するために、この製品を作るのに十分な工数が確保されているか、そのテスト時間で足りるのかといったことを分析し、スケジューリングするために多方面からチェックするための委員会も稼働しています。(谷川氏)

アドオン製品を開発するうえでは、当社製品(PowerSteel)ユーザーにとって必要のないベースソフトウェア(SMILE)の機能が動作しないようにしながら、当社製品の機能に影響が出ないようにする必要があります。したがって、表からは見えない部分を含めて全体を把握し、すべての試験を行っていく必要があります。(城野氏)

## PSQ認証取得の背景について

もともと、検証事業を進めるうえで、韓国の「GS(Good Software) 認証」については知っており、世界に通用する製品を提供するうえで、日本でも必要な認証制度だと感じていました。

PSQという制度設立を聞き、当社がお客様に安心して使って頂ける、もしくは、販売店様が安心して売っていただける製品の開発・販売を目指す以上「取らざるを得ない」認証だと感じました。マーケティング的に見て、SMILEのアドオン製品は各種販売されていますが、その中で当社が一番最初に取得したい、とも考えました。(谷川氏)

## PSQ認証の申請から審査の過程で苦労された点

システム開発事業部内でファイルのネーミングルール等、文書の管理はできていたのですが、マニュアルに書いてあること(機能)はこの試験文書で確認できる、ということをつづけるのが一番大変でした。記憶をたどりつつ実際のファイルの確認、という作業を繰り返しながら1対1で紐づけていきましたが、結局すべての試験文書を見直しました。また、自分の理解も不足していたのですが、品質特性/副特性の理解と体系付けから入らなければならなかったんです。(戸田氏)

従来の開発では、要求仕様に基づき、機能から順に考えていくので、ISO25051のように品質特性から考えていく作業は初めての経験だったようです。開発部門にとって、これまで一部の品質特性しか見ていなかったものが、すべてをしっかりと見渡せるようになったということは、苦労はしたけれども、品質に深みを持たせるためのいい勉強になったと思っています。(谷川氏)



システム開発事業部  
事業推進室  
マネージャー 戸田達也氏

## PSQ認証取得の効果やこれから期待する点

もともと、開発部門に検証事業の技術を取り入れなければいけない、ということから、教育に関する委員会を中心にIVECのレベルの高いメンバーが講師となって「テストとは何か」といった根本的な研修は行っていました。ここには品質特性の解説も含まれています。

そして、PSQ認証取得後に「品質とは何か」といった研修を行うようになり、部内で品質に関する意識統一が図れるようになりました。また、社内できちんと統一化された環境が整備されていけば、パッケージに限らず活かすことができると思います。(戸田氏)

PSQは、「カタログで謳っていることが確かである」という、ある意味当たり前のことですが、我々作り手の品質基準だけではなく、第三者によって認められている、という指標になります。それが競合他社との大きな差別化要因となることが望まれますが、そのためにはもっとPSQ自体の認知度向上が必要ですね、勝ちにいくための材料となりうる認証だと思いますので、ぜひ、大手パッケージベンダーにもどんどん取得していただき、大々的に宣伝していただきたいと思います。そうすることで、販売店にも認知され、「安心して売れる製品ですね」という認識を持ってもらえるのではないのでしょうか。(谷川氏)



お問い合わせ先：

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ) PSQ認証室

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-6 赤坂グレースビル4F

TEL:03-3560-8452

<http://www.psq-japan.com>

E-mail: [psq\\_info@csaj.jp](mailto:psq_info@csaj.jp)